

20 年間の名講義に感謝



原学長補佐、土曜大学で終止符

金沢学院大学基礎教育機構が主催する土曜大学の今年度最終講座となる第十二回公開講座は三月二十日、2号館講義室で開かれ、原米一学長補佐・教授が「古典の世界を訪ねて考える」をテーマに、講義を行いました。

今年度で定年退職する原学長補佐が本学で講義を行うのは同講座が最後とあって、会場には一般の受講者に加えて教職員、卒業生、ゼミ生ら約五十人が聴講に訪れ、名講義に耳を傾けました。講義では、「事実是有

限、虚構は無限」という哲学的な命題について、万葉集の代表傑作といわれる山部赤人の富士山賛歌や、松尾芭蕉の「奥の細道」、その随行記録「曾良随行日記」など古今の文学作品を題材にして、虚と実が生み出す真実性と芸術性をユーモアを交えて解説しました。

講義終了後、ゼミ生と基礎教育支援室職員が花束を贈り、昭和五十九年に金沢大学から金沢女子短期大学へ移って以来、二十年間の名講義に感謝しました。

白須教授の最終講義も

美術文化学部の白須宏俊教授の最終講義は三月十二日、2号館であり、「私の歩んだ道&贈る言葉」の演題で、企業に勤めていた時代のエピソードや教員生活の思い出を語りました。

国公立大に4人合格

東高校生 16年度入試で

金沢東高校卒業生の平成十六年度大学・短大入試における結果がまとまりました。一人が合格し、富山大学経済学部と愛媛大学法文学部

に現役生が合格しました。私立大学では、金沢学院大学に八人（文学部九、経営情報学部四十六、美術文化学部二十五）、同短期大学に二十三人（言語コミュニケーション学二、生活文化学科二十一）が進むことになっています。



学院短大が公開講座・講演

アテネ目指し

最終選考会へ

金沢学院短期大学の公開講演は三月二十六日、4号

笑いあり、涙あり

演劇部が第6回公演「金沢学院大学演劇部「演劇集団Rough」(ラフ)」の第6回公演は三月二十日と二十一日、金沢市の泉野図書館で行われ、昨秋に続くコメディ第二弾「ボクサア」(高橋いさを作)が上演されました。

妄想が膨らんで殺人にまで暴走するアパートの住人の姿がブラックユーモアを加味して演じられ、観客の笑いとおべっさを誘いました。



聴衆の笑いを誘った演劇集団Roughの舞台

|| 金沢市泉野図書館

紫外線防御に理解深める

金沢学院短期大学の公開講座「太陽紫外線とからだ」は三月二十日、金沢市の北國新聞会館で開かれ、約二百人の受講者が、紫外線が身体に及ぼす影響や防御の方法に理解を深めました。

小堀為雄学長が挨拶したあと、太陽紫外線防御研究委員会の第十回公開セミナー「組織会長を務める二階堂修金沢学院短大教授らが司会を務めました。専門家五氏が、皮膚がん、しみ、しわ、目の病気など紫外線が起すトラブルと、UV化粧品の焼け止めクリーム、サンングラスなどを使った対処法を解説しました。

最後の総合討論「写真上」では、聴講者から質問が相次ぎました。



ンとの出会い、シドニー五輪の思い出から、アテネ五輪出場に向けた最終選考会の見通しを説明するとともに、育ててきた古章子と半本ひろみ両選手の特徴などを解説しました。

そのうえで、「どっちが出場できても、自分の分も頑張れと言ってくれるスポーツマンシップを持ってもらいたい」と、指導者としての理念も語りました。



発行・広報室